



TITLE:

名前のいろいろ(三)

AUTHOR(S):

天文臺人

---

CITATION:

天文臺人. 名前のいろいろ(三). 天界 1923, 3(27): 78-80

ISSUE DATE:

1923-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159842>

RIGHT:

土記にスバルを七童子に象つたのは、支那の天文學に出たので、日本の古傳や印度傳來の説とは違ふ。スバルの希臘語ブライアデスは航海星の義であり、日本の近世に於てもこの星は航海者に割合によく知れてゐるけれども、乙姫の海宮の入口に迎へに出て来るものとしましては、意義が甚だ不明瞭であると言はねばならぬ。たゞ海に關係があるといふだけでは説明が物足らぬ。たゞ昂の次に畢をもつて來た所は、たしかに支那星學の影響を認むべきであるが、これらの二星座の先驅として、オリオンの參なるミツボシも當つてゐない。希臘のアトラス神の七人娘でもいふやうに、何か別の神話なり象徴なりを發見しなければ解釋がつけない。

畢の和名をアケリボシ云ふ。スバルの名の如く古くなく又その名義もよくわからぬ。或はアケリは明ケリで赫々の義であるのか、それらの語源説や名稱考は次稿にゆづるが、よしや日本自然の説話ではないにしても、ブライアデス(航海星)ミヒアデス(雨降星)ミの二星座が浦島傳説にあらはれてくるのは注意しておく必要がある。尤もスバルだけは上古から自然日本人に知れてゐたが、畢の方は普通民間に知れなかつたのだ。(つゞく)

唯永遠のみ無限大を究むるに足るべし。

アーサー ローズ

## 名前のいろく (三)

### 天文臺人

#### 星座

地球上に鑲めてある數多くの星も、濱の眞砂の夫れと同じく無秩序に且つ無數にある様に思はれるけれども、暫く夜の空に親しんで顔なじみになる三三三三星はいつ迄も三三三三並び、ベガス、の四邊形はいつ見ても四邊形をしてゐることを認めるであらう。昔の天文學者は此等の星の配置を下繪にまつて、美しい空想の彩管を奮つて天空上に數多の人や獸や鳥の姿を描き上げた。又立琴を描いたし冠や六分儀の繪もかいた。そうして此等にそれらの名前をつけたのである。かのトレミーが書き残した偉著アルマゲストの四十八星座は其最も古いものである。チホ・ブラへは更に二個の星座を、次でバイエルは十二個の星座を之に附加した。

ハレイ、フラムスチード、ヘバリウス、ラカイユ等更に誰れ彼れが比例にならつて遂に百以上の星座をつくつたのである。即ち或人に云はせるに、何れも自分の命けた名前がなくては氣が濟まぬ有様になつたことである。従つて個々の星を記すために便宜の方便であつたものが却つて煩瑣まぎらはし

省記法	星座名	省記法	星座名	省記法	星座名
And	Andromeda	CVn	Canes Venatici	Ori	Orion
Ant	Antlia	Cyg	Cygnus	pav	Pavo
Aps	Apus	Del	Delphinus	Peg	Pegasus
Aql	Aquila	Dor	Dorado	Per	Perseus
Aqr	Aquarius	Dra	Draco	Phe	Phoenix
Ara	Ara	Equ	Equuleus	Pic	Pictor
Arg	Argo	Eri	Eridanus	PsA	Piscis Austrinus
Ari	Aries	Forn	Fornax	Psc	Piscis
Aur	Auriga	Gem	Gemini	Pup	Puppis
Boo	Bootes	Gru	Grus	Pyx	Pyxis
Cae	Caelum	Her	Hercules	Ret	Reticulum
Cam	Camelopardalis	Hor	Horologium	Scl	Sculptor
Cap	Capricornus	Hya	Hydra	Sco	Scorpius
Car	Carina	Hyi	Hydrus	Sct	Scutum
Cas	Cassiopeia	Ind	Indus	Ser	Serpens
Cen	Centaurus	Lac	Lacerta	Sex	Sextans
Cep	Cepheus	Leo	Leo	Sge	Sagitta
Cet	Cetus	Lep	Lepus	Sgr	Sagittarius
Cha	Chamaeleon	Lib	Libra	Tau	Taurus
Cir	Circinus	LMi	Leo Minor	Tel	Telescopium
CMa	Canis Major	Lup	Lupus	TrA	Triangulum Australe
CMi	Canis Minor	Lyn	Lynx	Tri	Triangulum
Cnc	Cancer	Lyr	Lyra	Tuc	Tucana
Col	Columba	Men	Mensa	UMa	Ursa Major
Com	Coma	Mic	Microscopium	UMi	Ursa Minor
CrA	Corona Australis	Mon	Monoceros	Vel	Vela
CrB	Corona Borealis	Mus	Musca	Vir	Virgo
Crt	Crater	Nor	Norma	Vol	Volans
Cru	Crux	Oct	Octans	Vul	Vulpecula
Crv	Corvus	Oph	Ophiuchus		

さを來すこゝになつたので、段々取捨されて今も尙ほ用ひられるものは約九十星座を數へるのである。

而して此等星座の名前は國々によつて色々な呼び方をしてゐるのであらうが、學術的には昨年五月イタリアのローマで開かれた萬國天文同盟に於てラテン名を一般に採用することに決議し其主要星座として八十九星座を選んだのである。そして其星座名も、もゞゞソビエスキの盾と呼んだものを當今では單に盾と稱へ、又菱形網の目といふべきを單に網の目と云ふ風に簡略にしたのではあるが、尙ほ此等の略字を使用することを決議して上に掲げるものを得たのである。

此略字はヘルツスブルグ及びラッセル教授によつて提出せられたもので結構に申上げて宜しいと思ふ。只 Phoenix 及 Tucana を Phe 及 Tuc と略したのならば一層の思ひでもつて Caelum を Cae としたと云ふことは、これでは尙ほ宜しかつたかと思へる。

又主要星座八十九は申すものゝ今迄用ゐられてゐるものには町々で、アメリカの天體曆は約八十四星座に屬する星の表を掲げてあり、英國曆はいくらか少ない様であるがアメリカ曆には Pyxis 羅針盤を採用してゐるかはりに英曆では Maus 櫓を採用してゐる。又有効で且つ手輕なノルトン星圖には、羅針盤はないし日本天文學會出版の新撰恒星圖にも同様である。

元來トレミーの名付けたアルゴ星座が餘りに廣過ぎるので

ラカイユが此れを五つの星座に小別けたものが龍骨、橈、羅針盤、帆であるがさうしたものが羅針盤は忘れ勝ちでその領分が橈に屢々奪はれてゐたものであるらしい。

夫れが羅針盤の勢力が盛んになれば橈が犯されるのは自然の理で兩者並び立たない有様である。然しバックハウスの肉眼星表には八十八の星座を掲げてゐるが、旗幟鮮明に團扇を羅針盤に上げ且アルゴ星座を抹殺してある。此度の萬國天文同盟に採用せられたる主要星座なるものもバックハウス星表と命脉相通する様に思はれるが、アルゴ星座を保存してあるところが尙あきならぬ點でいつ迄もトレミーに心中立てする必要はないと思ふのである。

譯語については前に一言したけれ共、近頃注意して呉れる人があつて氣が附いたのは天文月報並に本年の神宮頒布曆に以前牧夫星座と稱へたものを牛飼と呼んでゐることである。其ラテン名は *Bootes* でフランス語では *Bouvier* といつてゐるものである。これを字書で見ると *Boies* はギリシヤ語の *Boorns* から來てをてつて *ox-driver* といふ譯が出てゐる。自分はラテン語なりギリシヤ語なりは解らぬのでよくは判らないけれども、此れで見るに成る程牛飼ひが適當の様に思はれる。しかしフランス語 *Bouvier* は牛飼といふ譯もあるが、矢張り *cattle driver* 又 *shepherd* ならいふ譯もあつて必しも牛

にこだわつてはゐない。しかもチエンバースの書物にはボオテス熊遣ひと出てゐる。又 *Bootes* 或は *Arctophylax* といふし且つ此星座の星を *Arcturus* と呼ぶのは熊飼ひといつた様な意味なのであるから、大熊、小熊兩星座の附近の星座としては或は熊ならしむか云ふ風に呼ぶのが本當かも知れない。又或る星圖を見るにボオテスが左手に獵犬の手綱をこり、右手に棒切れの様なものをもつて腰には劍をブラ下けてゐる繪があるのを見るに、熊狩りにでも行く様子にも見えるのである。

プロクタアならには *Herdman* 牧夫と當らずさはらずに書てあるが旁々今迄牧夫といつたものをわざ／＼牛飼と改める必要は更にならない様に思はれるのである。私の特に不賛成なる所以は昔から織女牽牛——をりひめ、うしかひと並び稱へてゐる鷲星座と星と殊更に紛はしい名前をつけることは策の上乗なものとは申せないのである。

右様の有様で上記の星座略字と共に星座名を附け加へたいと思つたけれ共、確定的な譯語がまだない云ふ有様であるから其内に協議の上定めたいと思つてゐる。(つゞく)

空間には多くの搖籃と墳墓の何れもが存在する。

カミール フランマリオン